

上下北小学校学校運営協議会

CS理念

郷土を誇りに思い、思いやりとねばり強い心を持った、未来を切り拓く子どもの育成 ～自立・協働・創生～

キャッチフレーズ

みんな大好き わが郷土 上下

1 コミュニティ・スクールの取組みを通して育てたい子供像

上下町は江戸幕府の直轄地として、また山陰山陽を結ぶ交通の要衝として古くから栄え、明治から昭和初期に至る繁栄の跡が今でもうかがえる建物が相当数ある。

しかし、町内の小学校も5校から2校に再編成され人口の減少・高齢化も進み、こうした地域の伝統的建造物や各行事の伝承も継承が難しくなっている。地域の方々の「上下白壁の街並みの伝統的建築物を生かした様々な祭りや地域の行事を通して、地域の活性化を図っていきたい」「上下が好きで上下のよさをたくさんの人に知ってもらいたい」という願いはさらに強くなっている。

地域の未来を担う子供達の成長は、地域に住む人々にとっての夢であり希望であり、こうした地域の願いをもとに、「将来困難な壁にあたっても、仲間と協働し乗り越えていくことができる人材」

「上下の未来を切り拓いていくことができる郷土の後継者としての人材」の育成を目指している。

昨年度コミュニティ・スクールの設置にあたって、保護者や地域の皆様にアンケートを取り、子ども達がどのように育ってほしいと望んでおられるかを調査した。その結果、①思いやりの心を持ち、周りの人と生活ができる②礼儀正しい態度やあいさつができる③最後まであきらめずに取り組むことができる子どもに育ってほしいと感じておられることが分かった。

○それを受けて、コミュニティ・スクールの基本理念を「郷土を誇りに思い、思いやりとねばり強い心を持った、未来を切り拓く子どもの育成～自立・協働・創生～」とした。

2 学校の特色を生かした取組み

コミュニティ・スクールとしての取組みを生かし、上下学園として系統立てて取り組んでいくために、これまでの教育課程を「ふるさと上下学」として進めることとした。この「上下学」の目的は子どもたちの郷土愛を育み、「上下で学んでよかった」と思える子供の育成である。その取組みは、大きく分けて以下の3つである。

1. 地域人材の活用

○ゲストティーチャーの活用…地域の方や保護者の方をゲストティーチャーとして招き、専門性を生かした安全な活動の充実と児童の技術の向上を図ることができている。主なものは、家庭科の裁縫指導や田植え・稲刈り体験（5年生）や生活科の栽培活動（1・2年生）・体育科の水泳指導（全学年）・陸上指導（5・6年）・特別活動（茶道クラブ）などである。



○道徳参観日…地域教材の開発も視野に置き、事前に地域や保護者に取材して授業を行った。「友情・信頼」「感謝」「勤労・公共の精神」など各主題に沿って、地域や保護者の願い等、生の声を聴くことができ、価値を深めることができた。

○図書室のバーコード化…夏休みに地域の方の助けを借りて、たくさんの蔵書にバーコードを取りつける作業を行うことができた。



○読み聞かせボランティア「お話玉手箱」…保護者有志の方に毎月1回朝会時に各学年に読み聞かせをしていただいている。児童も集中して聞き、読書を楽しんでいる。夏休みの全校登校日には平和に関する図書の紹介として、全校児童を対象に大型絵本の読み聞かせなどを行ってもらい、命や平和の大切さを考えることができた。



2. 地域行事への児童の参画

○「天領上下白壁まつり（10月）」「天領上下かかし祭り（11月）」「天領上下ひな祭り（3月）」への参加
・3年生は「地域の祭りのもり上げ隊」として、祭りの意義や地域の方の思いなどを学び、白壁祭りでは「上下町クイズ」や「スタンプラリー」等いろいろな活動に分かれて地域を盛り上げた。



・6年生は上下町の名所巡りでガイドの方から上下町のよさを学んだことを生かして、白壁祭りでは地域の方や観光客に自分たちがガイドとして上下のよさを伝える活動ができた。



・1・2・3年生はかかし祭りのスタッフさんの指導の下、手作りでかかしを作った。自分たちのアイデアを形にしていく実行力・達成感を高める活動ができた。かかし祭りへ出品展示する予定。



○小中高合同清掃

夏休みに小中高合同清掃を行った。高校生も可能なところで参加された地域もある。



3. 保・小・中・高・地域住民との協働

○翁山の夢ツリープロジェクト

昨年度9年ぶりに復活した翁山のツリーの取り組みは、上下学園の3校と保育所・上下高校が協働し、地域の各団体で作る実行委員会が発足した。子どもの実行委員会と大人の実行委員会で今年度も翁山をライトアップする予定である。

3 今後の方向性

○成果

・「ふるさと上下学」として総合的な学習の時間と各教科をリンクして効果的に学習する教育課程を編成することができた。

・地域の方に来ていただくことで、児童の意欲も高まり、技術や知識の向上も見られた。また地域の方との交流が深まった。

・地域の行事に参加することで、地域の一員である自覚と誇りが高まり、郷土への愛着が深まった。

○課題

・ゲストティーチャーの固定化…人材確保のため広報誌で啓発する。

・日常的に子どもと触れ合う場の設定…1階ホール・コミュニティスペースを充実させ活用する。

・費用の面…広報誌の印刷代や各活動の材料代など様々な面の協力をお願いするなど工夫する。